

第1回 日本映像学会「映像身体論」オンライン公開研究会

「導体になること—情動、交感、ASMR」

【日時】 2024年 12月 15日（日） 14:00-16:00（日本時間） @ zoom

【プログラム】

趣旨説明：難波 阿丹（聖徳大学） 「映像身体論の系譜」

講演：野澤 俊介（北海道大学） 「導体になること—情動、交感、ASMR」

参加登録はこちら
まで！



【野澤 俊介 略歴】

シカゴ大学人類学部 Ph.D（人類学）。最近の論考には“Face” (J. Stanlaw, ed., The International Encyclopedia of Linguistic Anthropology, 2020)、
Japanese Media and Popular Culture (Jason Karlin, Patrick Galbraith, and Shunsuke Nozawa, eds., <https://jmpc-utokyo.com>, 2020) (共編)、「言語のキャラクター化—遊戯的翻訳と引用」（定延利之編『キャラ概念の広がりと深まりに向けて』2018）、「「荒らし」と相互忘却」（武黒麻紀子編『相互行為におけるディスコダンス—言語人類学からみた不一致・不調和・葛藤』2018）などがある。

【参加登録は head.orgasm@gmail.com まで（資料をお送りします）】

科研費「触覚的な「快」情動によるアテンション管理の研究：ASMR動画を題材として」（研究代表：難波阿丹、研究課題番号24K15927）助成